

## 事業完了（廃止等）報告書

### 調査研究期間等

調査研究期間	委託を受けた日 ~ 平成29年3月17日
調査研究事項	【広島市立二葉中学校】 学習指導に関すること 【広島市立観音中学校】 学習指導に関すること
調査研究のねらい	【広島市立二葉中学校】 【広島市立観音中学校】 別紙のとおり
調査研究の成果	【広島市立二葉中学校】 【広島市立観音中学校】 別紙のとおり

## 1 調査研究のねらい

### 【広島市立二葉中学校】（学習指導に関すること）

本校の在籍生徒は、ほとんどが中国からの帰国者・入国者とフィリピン、ネパールから就労や結婚などのために入国した者である。10代から60代までと年齢層が広範囲にわたり、さらに学習歴も異なる現状において、日本語の習熟度も違う生徒への教科指導が課題であると考えている。

そこで、学習グループ（生徒一人一人）の状況に応じた効果的な指導や教材の在り方について研究し、生徒の学力向上に資することをねらいとする。

（課題）

- ・ 日本語の習熟度が低い生徒に適した教科指導
- ・ 学習の習熟度に差がある生徒への教科指導
- ・ 母国語が不十分な生徒への日本語指導及び教科指導
- ・ 日本語学習から教科学習を主とした学習へのスムーズな移行

（その課題を持つこととなった背景）

- ・ 10代から60代までの幅広い年齢層、修学年数の違い、また日本での滞在期間・生活状況などの違いにより、各生徒の日本語習得状況や学習の習熟度に差がある。

（参考資料1参照）

- ・ 中国語の読み書きが困難な生徒は、中国語の解説書も役に立たず、理解することが難しい。以上のことから、日本語学習から教科学習への効果的な指導方法を探る必要がある。

## 2 調査研究の成果

### 【広島市立二葉中学校】

#### （1）本年度の取組について

上記のねらいを達成するため、本年度は、教員研修と情報収集を柱に次の取り組みを行い、実践に結びつけた。

##### ① 教員研修

- ・ 4月 第1回研修会

指導者全員で研修を行い、本年度の生徒状況を把握するとともに各学習グループにおける各教科の年間指導計画を立てた。また、評価方法について共通理解を図った。

- ・ 7月 第2回研修会

個々の生徒の学習状況や習熟度等について情報交換を行い、生徒一人一人の実態を把握し、教科の指導法や教材について検討し、学習指導や学習内容の充実・改善を図る場とした。

- ・ 8月 第3回研修会

講師を招聘し「日本語指導について」の研修を行った。韓国語での模擬授業を通して、生徒の緊張や混乱等を体験し、文字学習の困難さを再認識した。「一人一人違うことを大切にすること、目標を常に意識させ楽しんで学べる学習を考えることなど、授業を進めていく上での大切なことを研修することができた。

- ・ 10月 第4回研修会  
前期の学習状況の確認と生徒状況の把握を行い、後期の取組内容の確認を行った。また、評価方法について再確認した。
- ・ 2月 第5回研修会  
年間カリキュラムや評価、学習指導、生徒指導など、各項目について今年度の成果や課題を出し合い、意見交流を行った。
- ・ 3月 第6回研修会  
今年度の成果や課題をまとめ、来年度へ向けての準備を行った。

## ② 情報収集

- ・ 12月 東京都葛飾区立双葉中学校夜間学級を視察した。  
日本語・国語・家庭科・音楽の授業見学を行うとともに、見学後は生徒とも交流した。また、他校の教員との情報交換を通して、補助教材の作成や指導方法についての情報を得ることができた。

## ③ 授業実践

研修や収集した情報を活用して、生徒の実態に応じた教材を作るなどしてわかりやすい授業づくりに努めた。また、日本語の理解力や学力差の大きい授業では、個々にあったプリントを用意したり、ITを取り入れたりするなどして、個々に応じたペースで学習ができるようにした。

また、外部講師による指導や作文発表会など様々な体験を通して、より実践的な日本語に触れさせ、学習意欲の向上に努めた。

- ・ 音楽（特別授業）

音楽講師を招き、歌やいろいろな楽器演奏の鑑賞、講師の先生と一緒に日本語で歌を歌うといった内容の学習をした。さまざまな活動を通し、音楽の楽しさや素晴らしさを深く実感することができた。また、授業で練習したハンドベルを発表し、評価していただいたことで自信を持たせることができ、その後の学習への意欲を高めることができた。

## (2) 改善充実の成果について

- ・ 教科指導においては、教科担任で各学習グループ・個人に適した教材を作成することにより、生徒の実態にあった指導を行うことができた。より身近な題材を教材として学習内容に取り入れることで、生徒の興味や理解度を高めることができた。
- ・ 日本語学習の段階から教科の学習をすることは定着しつつある。今年度は、社会、理科、数学、英語を週2時間とした。学習内容をより深めることができ、日本語にも広がりが見えてきている。
- ・ 基礎的な語彙力をより効果的につけるため、パワーポイントなどICTを積極的に取り入れ、バリエーションをつけて学習した。ゆっくり、じっくり、繰り返し学習することで語彙力が定着してきた。理科では、ビデオ教材を取り入れながら授業を進め、興味を持たせることができた。ICTの活用は、生徒がわかりやすく理解しやすいため有効であった。今後も積極的に活用していきたい。
- ・ 学習内容や生徒状況について情報交換を行うことにより、教材作り等に役立てることができた。また、共通の指導内容を確認して授業を進めることで、繰り返して学習すること

が多くなり、力をつけることができた。

- ・ 継続して学習してきた生徒については、個々の力に応じた教材を提示することで、集中して学習に取り組み順調に学力が向上している。しかし、健康面や仕事、家庭の事情などで出席が安定しない生徒も多く、計画通りに学習を進めることが難しかった。欠席生徒への学習支援の方法や対応は難しく、引き続き課題と考えている。
- ・ 日本語の習熟度の差も大きく、教科学習の習熟度の差も大きい。限られた教員数と時間数の中で、教科学習での習熟度別授業をどのように実施するのかが今後も課題である。また、高校受験を希望する生徒と希望しない生徒を同じ学習グループで編成せざるを得ない場合、使用教材等十分な検討と配慮が必要である。今後も指導法のさらなる工夫・改善を図ることが必要である。

<参考資料>

【広島市立二葉中学校】

1 本年度、本校夜間学級に籍を有した帰国入国者における状況

① 入級時における年齢別・帰入国別人数（入級申請書より）

年代		10代	20代	30代	40代	50代	60代	計
男性	帰国	0	0	2	1	1	1	5
	入国	1	0	1	0	0	0	2
女性	帰国	0	0	0	1	0	0	1
	入国	0	4	3	2	1	0	10
計		1	4	6	4	2	1	18

② 入級前の最終学歴

	未就学	小4	小5	小6	小卒	中1	中2	中3	計
男性	0	1	1	0	2	2	0	1	7
女性	0	0	0	0	4	2	4	1	11
計	0	1	1	0	6	4	4	2	18

## 1 調査研究のねらい

## 【広島市立観音中学校】(学習指導に関すること)

本校には日本人、ネパール人、中国人が在籍し、年齢層は10代から70代と幅広く、学習歴も様々である。さら本年度からは、義務教育内容習得が不十分な既卒者も入級した。よって、日本語の習熟度が低い生徒に対する日本語指導及び、義務教育内容の習得が不十分な生徒に対する教科指導が課題であると考えた。

そこで、各国籍の生徒一人一人の状況に応じた効果的な指導や教材のあり方について研究し、生徒の学力向上に資することをねらいとする。

## (課題)

- ・ 日本語の習熟度が低く、また学習速度も遅い中高年生徒に対する効果的な学習指導
- ・ 継続的な登校が困難なため日本語の定着度が低く、初級後半レベルの日本語学習が難しい生徒に適した学習指導
- ・ 日本語学習を主とした学習段階から、教科学習を主とした学習段階への移行
- ・ 義務教育内容の習得が不十分な日本人生徒に対する教科指導

## (その課題を持つこととなった背景等)

- ・ 本校は従来より日本人生徒を多く受け入れており、義務教育内容未修了者への教科指導にはそれなりの実績がある。しかし、今年度より既卒者・義務教育内容の習得が不十分な生徒を迎え、さらに「工夫された授業」によって効率よく学習指導し、短期間で成果を上げる方法について調査・研究する必要性が生じた。
- ・ 国籍・年齢も母国での学習歴も来日後の生活環境等も出席状況までも異なるさまざまな生徒が、少人数グループでとはいえ、一斉授業で日本語入門から学習するため、生徒間の日本語の学習速度や習熟・定着度には大きな差がある。(参考資料添付)
- ・ 未就学やそれに近い実態のため中国語の読み書きすら困難で、翻訳解説書中国語版が学習理解の補助教材とならない生徒もいる。また、ネパール語版の翻訳解説書はまだ発行されていないため、英語を日本語学習の補助媒介として使える若年生徒と違って、英語どころか母国での学習歴自体がないような中生徒は結局わずかな日本語で日本語を学ぶしかなく、非常に困難である。彼らに対して、多く速く教えることよりも、日本語を確実に定着させるため、絵や実物を活用したり反復練習等を多用したりするなど工夫しているが、理解・定着が困難な生徒もいる。
- ・ 数年前から、出席状況や生徒の年齢等により、日本語初級の前半終了時点で既に学習内容定着に差が生じる状況が見られ、既習事項の定着を前提として展開される教科学習の教材の学習内容を理解するのが困難な生徒が多い。
- ・ 日本語教材だけで行う日本語学習では日本語力はある程度までで進歩が滞ってしまいがちである。日本の文化・社会・歴史・生活習慣等を幅広く学ぶことによって全体的な日本語力が向上を図れるのだが、生徒の多くの認識はなかなかそこまで達していない。また、日本語能力は初級レベルであり、その日本語と中学校教科書の日本語にはかなりの開きがあるため、日本語による教科学習は自分にはまだ早いと考える生徒も多い。

以上のような状況の中で、より効果的で生徒の学習意欲を高めるような取り組みについて取り組む必要があり、日本語指導チームを中心に効果的な日本語学習自主制作教材の作成、及び、教科指導チームを中心に義務教育内容習得の不十分な生徒に対する「工夫された授業」について調査研究した。

## 2 調査研究の成果

### 【広島市立観音中学校】

#### (1) 本年度の取組について

上記のねらいの達成を目指して、本年度は次のような取り組みを行い、実践に結びつけた。

##### ① 教員研修

###### ・ 4月 第1回研修会

校内で担当教員による本年度の授業に関する研修会を開催し、生徒個々の状況を把握するとともに、本年度の学習グループ編成や年間カリキュラム・使用教材・指導方針・方法について意見交換を行い、学習指導に対する意識統一を図る場とした。

###### ・ 9月 第2回研修会

校内で担当教員による本年度の授業に関する研修会を開催し、生徒個々の状況変化を把握するとともに、後期入級予定生徒を迎えた場合の学習グループ編成や使用教材・指導方針・方法について意見交換を行い、後期に向けての指導を方向づける場とした。

###### ・ 3月 第3回研修会

「テキスト・副教材検討委員会」・「テキスト・副教材作成委員会」を経て今年度作成した「自主作成教材」の交流・研究・討議をおこなった。

##### ② 情報収集…先進校視察

###### ・ 12月1日 東京都 墨田区立文花中学校

先進校・東京の文化中学校を視察し、本校以上にさまざまな状況を抱えつつ学習に取り組む生徒と彼らを指導する教員との交流や情報交換を通して、生徒状況に応じた指導方法や補助教材についての有益な情報を得ることができた。

##### ③ 授業実践

外部講師等による多様な文化体験を通して日本語に触れさせ、学習意欲の向上に努めた。また、教科学習を通じた日本語指導について、研修や各自収集した情報を活用して、生徒実態に応じた学習教材を準備し、分かりやすい授業づくりを調査研究した。

###### 行事をとおした日本語指導

- ・ 7月 異文化交流（日本伝統文化…盆踊り）[観音公民館]
- ・ 10月 スポーツ交流（グランドゴルフ）[観音公民館]
- ・ 11月 校外体験合同学習 [宮島]
- ・ 12月 音楽を通じた日本語指導（講師：森崎皓）
- ・ 1月 国際理解講座（ネパール文化 講師：シュレスタ・ルニバ）

###### 効果的な日本語学習自主制作教材

- ・ 日本語初級Ⅰ（夜A Bグループ）
- ・ 日本語初級Ⅱ（夜B Cグループ）

###### 義務教育内容習得の不十分な生徒に対する「工夫された授業」

- ・ 教科発展（夜Dグループ）…社会
- ・ 教科発展（夜Dグループ）…英語
- ・ 教科発展（夜Dグループ）…理科

## (2) 改善充実の成果について

- ・「会話」で○×問題を導入したことで、いつ・どこで・誰が・何をなど簡単なポイント理解から生徒は会話の流れを意識し、場面を推理しながら聞くことができるようになった。それに伴い教員の指示や発問に対しても流れから理解し、分からなかった言葉は後で聞けるようになった。問題により内容をより深く理解できるようになったことで、会話の流れを身近なものとしてとらえ、DVDの視聴においてもイントネーションや表情も意識しながら練習できるようになった。
- ・「読解問題」では答えの文を記述することにより、文型の使い方の理解が進んだ。また①ポイントを絞った理解について、生徒の意識づけ・習慣づけが進み、読解能力が向上してきている。生徒については日本の生活習慣や文化に興味を広がり、母国との違いや共通点について伝えたいという気持ちへとつながった。教科学習を行うCグループにおいては、資料を読んだり説明を聞くことで、教科特有の言葉や漢字の意味に興味の幅が広がり、主体的な学びへとつながってきている。(教材作成)
- ・授業態度が大変真面目で記憶力が高く、課題として出したプリントも完璧にやっていることが多く、歴史の流れをつかむことも意外と早かった。授業をスタートさせるとき、ノートの取り方の例を示したが、自分なりに工夫し、後輩たちに参考になるほどのものであった。(社会)
- ・発音が課題であったが、指導によりかなりNativeに近い発音ができるようになりつつある。学習した内容を使ったFree conversationの時間を意識的に長くした結果、コミュニケーション能力も向上している。(英語)
- ・スケッチの説明を行い、学校に咲く花や茎の断面、気孔・葉緑体など顕微鏡を使いながら観察しスケッチさせた。該当生徒は目的をしっかりと理解して観察を行うことができ、スケッチも目的に沿って分かりやすく、まとめることができた。(理科)
- ・生徒会やクラブ活動などの生徒の自主的な活動が充実しているなどの先進的な体制が作られていることに驚いた。また、昼間の生徒たちとの交流が大切にする取組なども見習うべき点だと思われる。生徒や地域の実態が異なるため、そのままでの導入は難しいが大いに参考になった。(先進校視察)
- ・事前学習で民謡や炭坑節の歌詞についての意味を学習し、歌詞と振り付けを結び付けて踊ることができた。
- ・地域の盆踊り大会に自主参加し、地域の人との交流をさらに深めることのできた生徒もいた。
- ・前年度に引き続き観音学区体育協会の方にご協力いただき無事行うことができた。
- ・少人数グループで行動することにより、生徒一人一人が深く交流でき、日本語実践の場として有意義な活動となった。
- ・二葉中との合同校外学習は、前年度に引き続き行うことができた。今年度は、現地での交流方法、内容などを年度当初から両校の係担当で相談をしながら進めたため、事前学習でしっかりと取り組むこともでき、より一層両校の交流を深めることができた。
- ・今年度は混声三部の合唱曲に取り組み、多くの卒業生や保護者の前で発表した。パートに分かれることで一人一人が責任感を持ち練習に取り組むことができた。普段聞くことのないバイオリンやサクスの演奏は生徒に多くの感動を与え、国を超えて音楽を楽しめる会となった。
- ・今年度はネパール食文化交流を行い、事前学習でスパイスの紹介等取り入れ、しっかりと取り組むことができた。カレー作りでネパール生徒が日本語を使い料理を説明し、サリーを着て自国の文化を日本語で紹介することができた。(行事を通した日本語指導)

## (3) 改善が見られなかった原因

- ・今回取り組んだ「会話」「読解問題」はそれまでの文型や新出語彙が定着していることを前提として行う項目である。そのため仕事を理由に休みが多い生徒に対しては効果が小さかった。今後は「会話」・「読解問題」までに文型をしっかりと定着させることが必要である。

- ・今回の教材作成により、授業スタイルが全クラスで統一されてきており、教員同士の引き継ぎがスムーズになった。しかし教材の目的についての認識は教員間で統一できておらず、研修や日々の引き継ぎで意見交換を行い、認識の統一や教材の改善を図っている。
- ・今回の教材は生徒の「話す」・「読む」に対する苦手意識を解消するきっかけになりつつある。教員間での各教材に対する認識も統一しながら、来年度以降も継続し、日々改善していくことが大切である。（教材作成）
- ・1年を通して、日本語で「わかりたい」から自力で「だいたいわかる」までは達成できたが、「よくわかる」というレベルまではいっていない。生徒がどの部分で躓いたかを知り、その躓きを学び直す教材作りも必要であると感じた。教科学習をしながらその中で日本語を習得させるという本校の目標に近づけるためには、今後、①日本語の資料を読み取り、②理解し、③自分の言葉で日本語を使って表現するという流れを習得させることが急務であるが、そのため①～③の支援をどのように系統的に行っていくのかを、教師側の研修を進めながら考えていくことも必要である。（教科を通した日本語指導）
- ・仕事との両立で、登校が困難な時期があったため、家庭でのプリント学習が増えたが歴史の大きな流れを理解させることを重視したため、各時代の特色やその転換については理解することができるようになった。しかし、級友と意見交換をしたり自分の言葉で表現することなど、来年度以降の課題も多く残った。学習内容をさらに検討し、適切な教材を考えるなど、研修を継続していきたい。（社会）
- ・頭の中で整理して慎重に発話してしまうため、かなりの間が生じ、またそのため、会話に必要な雰囲気と表情がぎこちなくなりスムーズな意思伝達ができにくい。文法にとらわれすぎない生き生きとした、表情豊かな英会話を目指したい。
- ・コミュニケーション重視の学習とはいえ、内容ごとに単元別確認テストを実施して定着度の確認と復習を行っている。文法は理解し、定着してはいるものの、単語そのものを書く語彙力が不足している。他教科にも言えることであるが、学校での学習だけでは限界がある。一日の生活状況を把握して、適度な量の家庭での課題プリント等を作成し、学校での補習の実施とも併せながら指導していきたい。（英語）
- ・仕事の都合上欠席が多いため、基礎知識についてはプリントでの家庭学習が中心となった。観察・実験中心の授業で物事を科学的に見たり考えたりする能力は付いてきた。しかし知識が定着していないため、理解が曖昧であったり、自分の言葉で表現できないなどの課題が残った。来年度も検討を重ね、これらの課題解決に向け研修を継続していきたい。（理科）
- ・当日のプログラムを充実させ、休憩時間等を利用して、地域の人との交流を更にはかかっていきたい。（行事を通した日本語指導）

<参考資料>

【広島市立観音中学校】

1 本年度中に本校夜間学級に学籍を有した外国からの帰国入国者における状況

① 年齢別人数（入級申請書より）

\*3/1 現在

	10代	20代	30代	40代	50代	70代	計
男性	0	2	5	0	0	0	7
女性	2	2	2	3	0	2	11
計	2	4	7	3	0	2	18

② 入級前の最終学歴別人数（入級申請書より）

	小1	小2	小3	小4	小5	小6	小卒	中1	中2	中3	中卒	計
男性	0	0	0	0	0	0	1	3	3	0	0	7
女性	2	0	0	0	0	0	3	1	3	1	1	11
計	2	0	0	0	0	0	4	4	6	1	1	18